

センター機関推進プロジェクト実施報告書

(1) プロジェクト全体計画（概要・目的・意義など）

乾燥地に生きる人々の生活を明らかにし、そこでの暮らしが生態系をより豊かにするようなものとなるにはどのようにすべきかを考えるための実践的意義をもつデータベース作りを目指している。そこから生まれる新たなコミュニケーションが更に、データベースを豊かにするよう、自律的に成長するシステムがその究極的目標である。

(2) 今年度の進捗状況

今年度は(1)中国陝西省における黄土高原生態文化回復活動の資料集作成、(2)中国山西省における三光作戦の村の老人の聞き取り調査、を中心に推進した。(1)は我々が黄土高原において朱所弼氏らと協力して推進している活動に関するものである。この研究は、コミュニケーションの渦を自ら惹起し、その渦に飲み込まれる中で、データを収集しかつ発信する、という形で推進しているものである。この成果の一部を、深尾葉子・安富歩編『黄土高原・緑を紡ぎだす人々―「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り(東洋文化研究所叢刊 第24輯)』として刊行した。紙媒体を用いたのは、保存性と頒布性を考えたものであるが、これを今後はデータベースとしてアクセスしうるものへと発展させる予定である。(2)は大野のり子氏が現地に数年にわたり滞在し、村の老人と心の交流を展開しつつ聞き取り調査を行なっているものである。我々は、その活動を側面支援してきた。今回、その成果の一部を、大野のり子編『黄土地上来た日本人―中国山西省三光政策村的記憶―』を東洋学研究情報センター叢刊13として刊行した。この問題に関する最初の体系的な聞き取り調査研究が、日本人の手で行われ、日本の機関から中国語で刊行されることは、大きな意義があると考えられる。こちらにもまた保存性と頒布性の観点から、紙媒体によって刊行したが、これを来年度以降、データベースとして提供していくための作業を行う予定である。

(3) 公開済の（または予定の）具体的な成果物

深尾葉子・安富歩編『黄土高原・緑を紡ぎだす人々―「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り(東洋文化研究所叢刊 第24輯)』(風響社)、2010年。

大野のり子編『黄土地上来た日本人―中国山西省 三光政策村的記憶―』東洋学研究情報センター叢刊13、2011年。